

大学名：静岡大学教育学部

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	はい。 オイスカ高等学校から相談があった。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	はい。 磐田市立豊田中学校を訪問し、助言した。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	はい。 日本生活科・総合的学習教育学会 全国大会シンポジウムで「持続可能な社会の創り手を育む生活・総合」をテーマに登壇していただいた。そこに至るプロセスの中で、「質の向上」を保障していたと思われる。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	出前授業やワークショップ ・静岡県立駿河総合高等学校への出前授業、2回 ・星稜中学校・高等学校への出前授業、1回 資料提供 ・静岡大学教育学部作成の『SDGs デジタル絵本 どうぶつと いっしょに ちぎゅうの 未来を かんがえよう～もりは かんたんには かいふくしないんだ～』など https://www.nhdzoo.jp/learning_program/
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	・全国幼児教育 ESD フォーラム 2021（文部科学省ユネスコ活動費補助金）を実施 https://knotworklab.com/data/1210/ ・ユネスコスクールの遊びと生活展の実施 （ユネスコスクールのこども園を中心にグローバルシチズンシップを育む協同的な活動の足跡がわかる体験的な展示会を行った） ・グローバルシチズンシップを育む協同的な活動についての講演会をユネスコスクールが主催し、実施
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	該当なし。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知	はい。 全国幼児教育 ESD フォーラムは、学校種間の接続と多セクター連携を目的としており、2021年度は260

を促進します。	らせることができた。	名の学校関係者だけでなく、社会教育関係者、行政、一般企業、NPO など多様な参加者を有している。また、ラジオを通して、ユネスコスクールの実践をお話いただく機会も設けた。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	「多様な」という部分に関しては課題が残ると思われる。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	はい。 ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムには、静岡県教育委員会をはじめ、各市町の教育委員会も加盟しており、教育委員会からの依頼による講演会などでユネスコスクールに関する話などをさせていただいている。また、静岡市内の常葉大学との連携により、教育学部の授業や学生主催の講演会などでお話をさせていただいた。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	はい。 社会教育施設、企業、NPO、一般に、全国幼児教育 ESD フォーラム等を通してユネスコスクールの存在について知らせることができた。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	はい。 全国幼児教育 ESD フォーラムでは、他地域のユネスコスクールにご登壇いただきセッションを行った。また、県外からのラジオ番組への出演なども機会を設けた。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	該当なし。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	

	4. 自由記述	
--	---------	--